

SZ-1000 簡易マニュアル 基本操作編

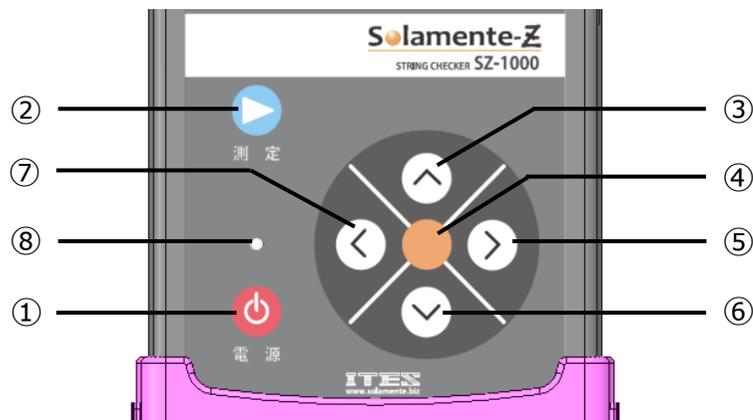
2020年5月11日 A2版

株式会社アイテス

- 危険**
 - 太陽光発電設備には高電圧の充電部があり、誤って触れると感電の原因になります。取り扱う電圧の区分に適した絶縁性の高い保護具を必ず着用してください。
 - 断路器には消弧能力がありません。ストリングに大電流が流れている状態で、断路器を切ると、アークが発生し、感電や火災の原因になります。断路器を切る前には、遮断器または開閉器を切ってください。

- 注意**
 - 電池が消耗すると、本体の挙動が不安定になる可能性があります。電池残量LEDの点滅の間隔が0.5秒になったら電池を交換し、改めて点検作業を行なってください。

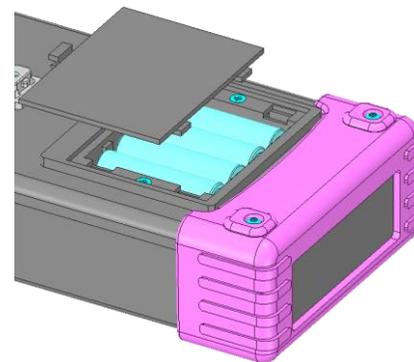
1. 操作パネルの名称



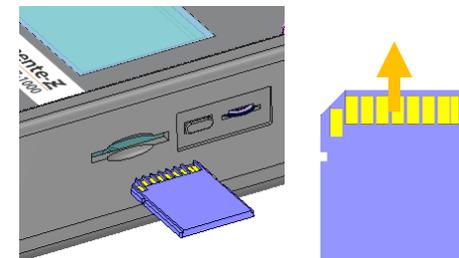
- ① [電源]ボタン
- ② [測定]ボタン
- ③ [上]ボタン
- ④ [中央]ボタン
- ⑤ [右]ボタン
- ⑥ [下]ボタン
- ⑦ [左]ボタン
- ⑧ 電池残量LED

2. スtringの電圧値と抵抗値を測定する

① 電池を入れます。



② SDHCメモリーカードを入れます。

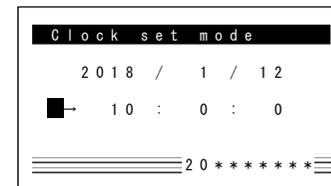


金属端子面を上にして
(切り欠き部分を左にして)。

③ [電源]ボタンを1秒以上長押しし、電源を入れます。

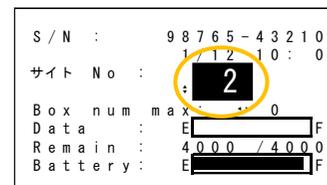


④ [右]ボタンを押して、日付と時刻の設定を開始します。

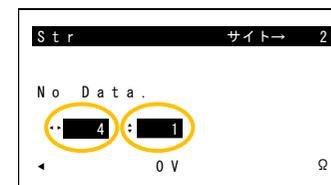


[右]・[左]ボタンで項目が移動し、
[上]・[下]ボタンで数値が変わります。
最後に[中央]ボタンを押して完了です。

⑤ [上]・[下]ボタンを押して「発電所番号」を設定し、最後に[中央]ボタンを押すと[測定]モードに切り替わります。

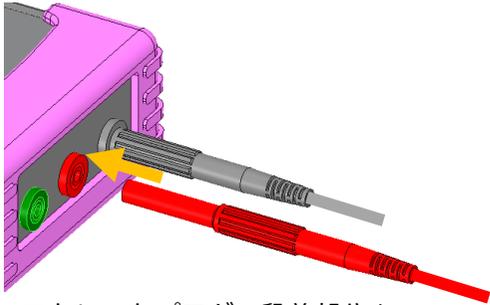


⑥ [右]・[左]ボタンで「接続箱番号」、
[上]・[下]ボタンで「ストリング番号」を設定します。



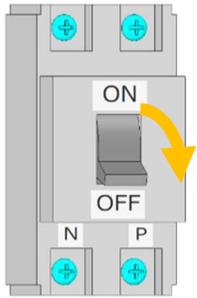
※ 「接続箱番号」にアルファベット付きの数値も設定できます。取扱説明書をご覧ください。

⑦ プローブを本体に挿し込みます。



ストレートプラグの段差部分まで挿し込んでください。

⑧ 断路器を切り、
ストリングを開放状態にします。



● クラスタ故障の疑いがあるストリングを検出すると、
測定結果の前に [所見マーク] の情報が表示されます。



*マークが表示されたとき

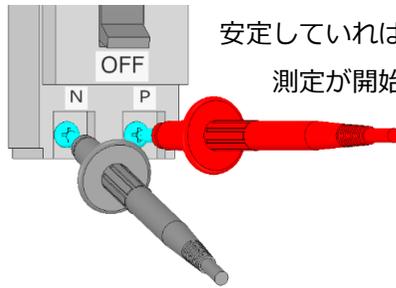
[所見マーク]には
v、r、*、d、x、N、L、P があります。

※ [所見マーク]の意味については、
取扱説明書をご覧ください。

⑨ 断路器のストリング側に

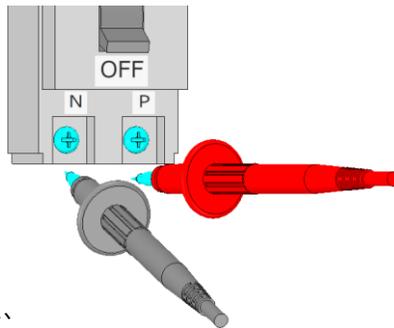
プローブをあてます。

電圧値が50[V]以上で
安定していれば、自動的に
測定が開始されます。



P端子には赤色のプローブ。
N端子には黒色のプローブ。

⑩ 測定が終わったら、断路器の端子から
プローブをはなします。



⑪ 測定結果を確認します。

	電圧値	抵抗値	
Str 1	334 V	22 Ω	2件前の測定結果
2	345 V	16 Ω	1件前の測定結果
4 ÷ 3			
	0 V	Ω	

測定結果を前後のストリングと相対比較することで、
3種類のクラスタ故障が起こっていることを判別します。

故障の種類	測定結果	
	電圧値	抵抗値
正常	正常	低い
① クラスタ断線	故障クラスタに 相当する値が低下	とても高い
② クラスタ高抵抗化	正常	高い
③ バイパス回路短絡	故障クラスタに 相当する値が低下	低い

⑫ 測定作業が終わったら、断路器を元の状態に戻してください。

3. 測定データを保存・削除する

① [測定]モードから[中央]ボタンを2回押すと、[データ保存・消去]モードになります。

② [上]ボタンで[データ保存]を選択し、
[右]ボタンを押すと、測定結果を
SDHCメモリーカードに保存できます。

③ [下]ボタンで[データ消去]を選択し、
[右]ボタンを長押しし続けると、
本体内の測定結果を消去できます。

